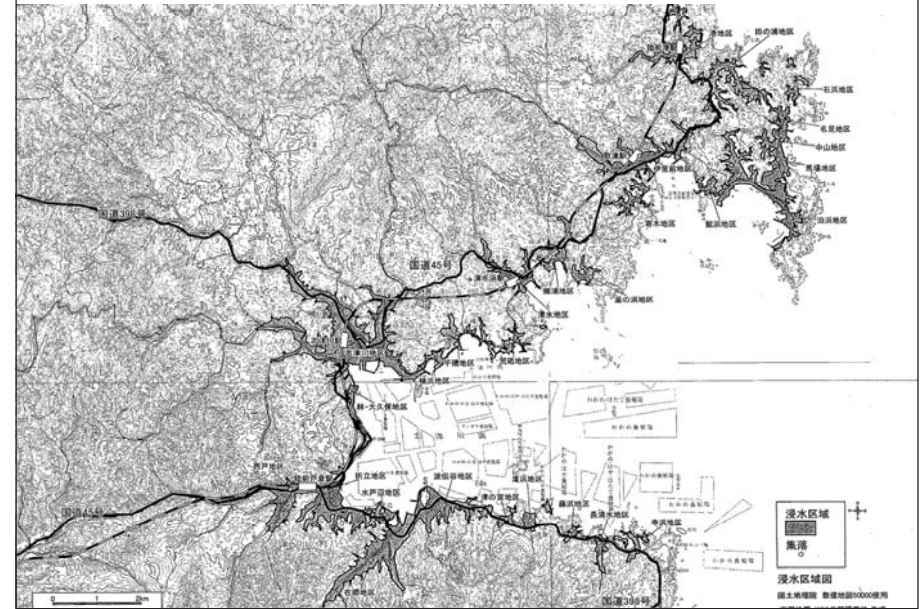


高台移転の計画動向

南三陸町・宮城県／釜石市

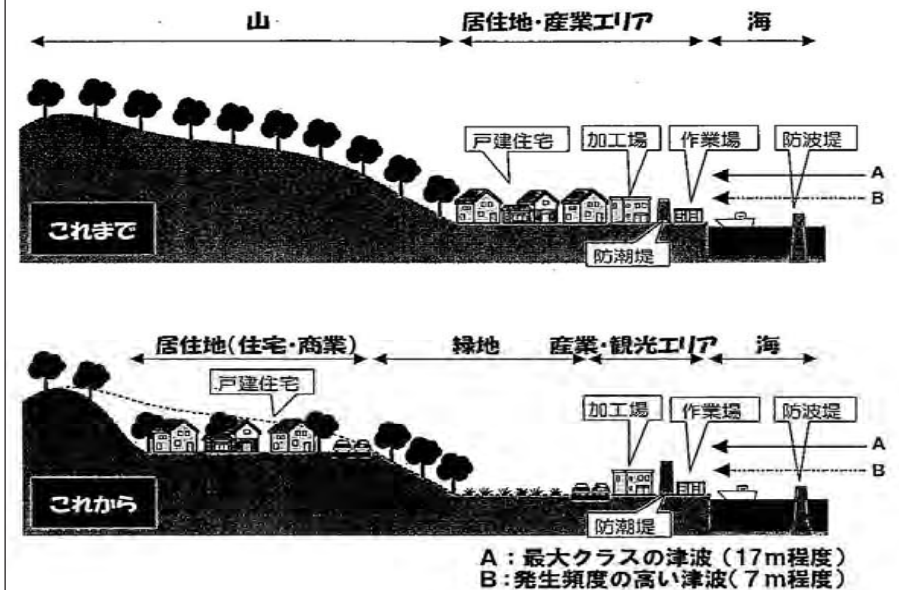
南三陸町「震災復興計画」より



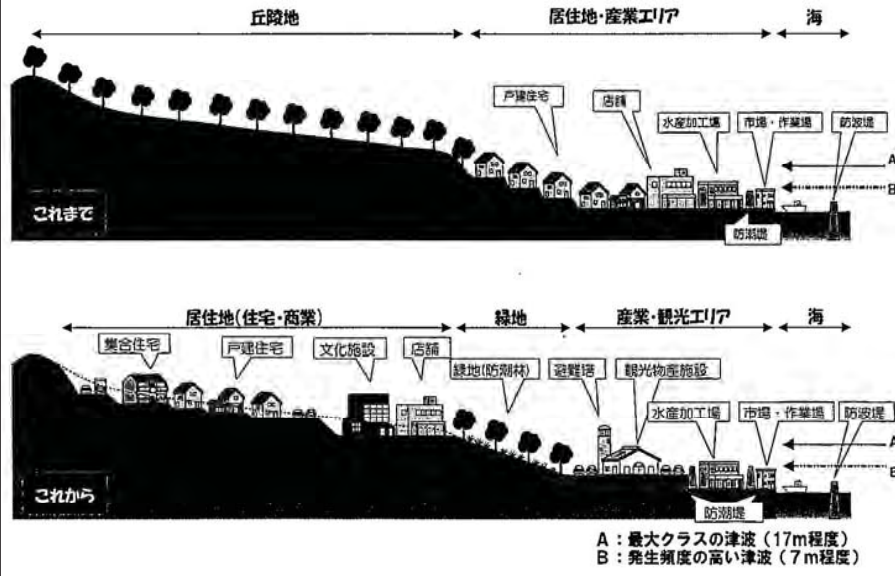
集落配置パターン(案)

A: 個別移転案	B: 集約移転案	C: 折衷案
集落(地区)ごとに近くの高台に移転する案	小学校区(旧小学校含む)単位で集落を集め、高台に移転する案	地域特性・住民意向などを踏まえて、個別移転・集約移転を図る案
<p>【特徴・課題】 (暮らしの視点) ○地区内の慣れ親しんだ人たちが暮らす。 ○今まで住んでいた愛着ある場所から近い。 ○最寄りの漁港までの距離が近く、漁に出やすい。</p> <p>(整備の視点) ●各地区の近くで、移転先の土地を確保することが必要。 ●個別に集会場や公園などの施設を整備することが必要。</p>	<p>【特徴・課題】 (暮らしの視点) ○他地区の人たちと一緒に暮らす。 ○今まで住んでいた愛着ある場所から遠くなる場合がある。 ○最寄りの漁港までの距離が遠くなる場合がある。 ○公共サービス施設、店舗等の立地が見込める。</p> <p>(整備の視点) ●移転先の土地として、比較的広い土地の確保が必要。 ●整備した施設を効率的に活用できる。 ●造成費用の軽減が見込める。</p>	

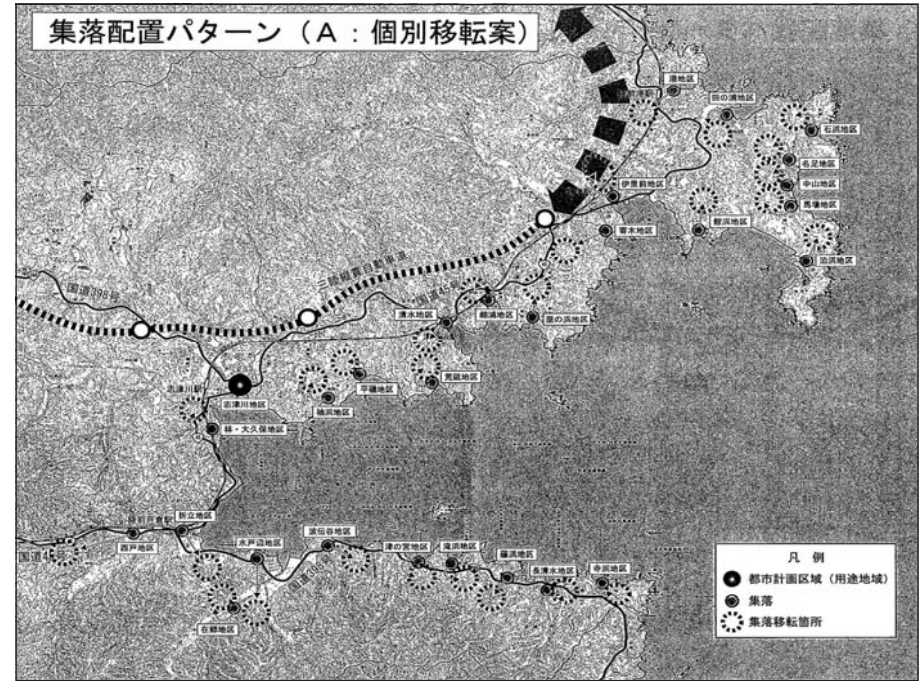
漁村集落断面イメージ



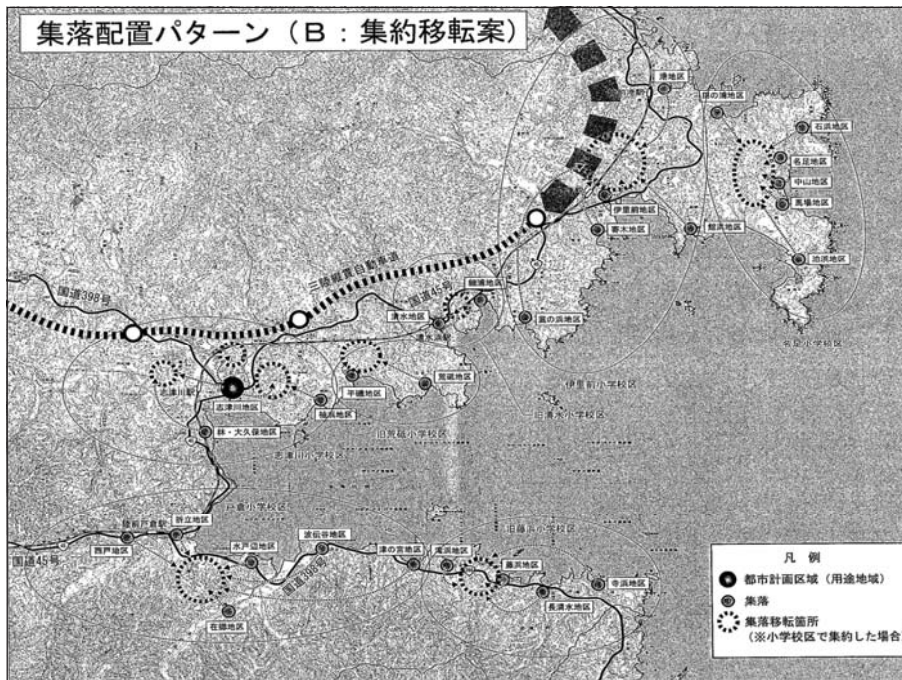
市街地断面イメージ



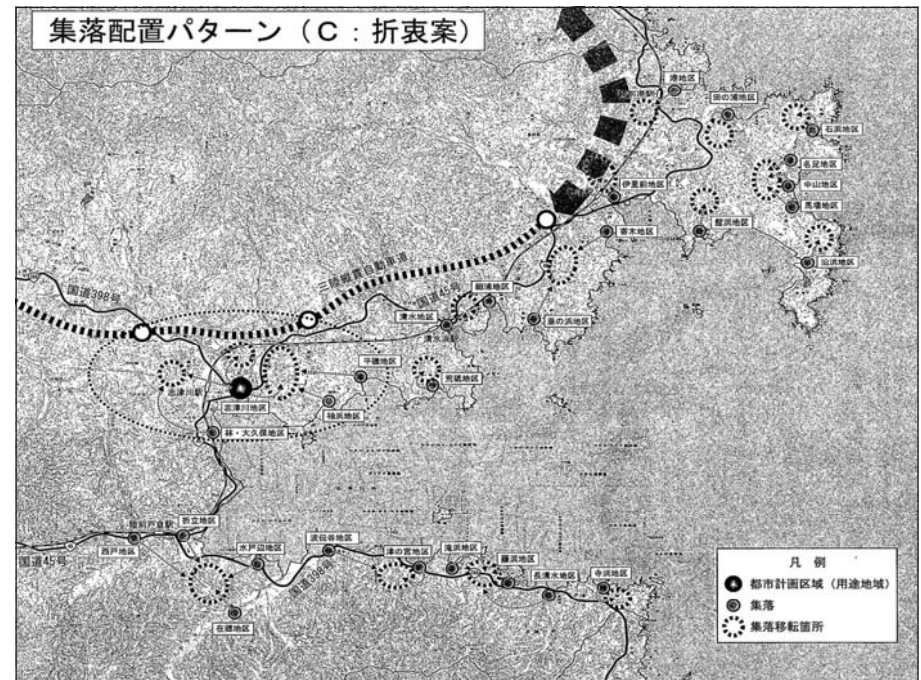
集落配置パターン (A : 個別移転案)



集落配置パターン (B : 集約移転案)



集落配置パターン (C : 折衷案)



まちづくり紙芝居(宮城県要望)

住民が安全に安心して生活できる“みやぎの復興まちづくり”のために ～被災市町の復興まちづくり事業の課題～

■防災集団移転促進事業

・宮城県内59箇所、総事業費4,250億円

○補助率の嵩上げと、補助限度額の撤廃を要します

「危険な丘陵を背後に抱く集落」
▼石巻市船越漁港集落

【従来の防災集団移転】
近場の小規模造成地に小規模集団移転

▼東松島市集落

【東日本大震災における防災集団移転】
危険な丘陵を造成し大規模な集団移転

▼塩釜市村島集落

■土地区画整理事業(被災市街地復興土地区画整理事業)

・宮城県内26箇所、総事業費5,850億円

○補助率の嵩上げと、造成にかかる費用を補助対象とする事を要します

「背後に丘陵を抱く全壊市街地」
▼南三陸町市街地

【高台造成の区画整理】
被災地
高台造成の区画整理
被災地の緑地保全または防災緑地化

▼女川町市街地

【地盤沈下の嵩上げ】
地盤沈下
地盤沈下による浸水
▼石巻市浸水地区

宮城県沿岸の市街地や農村集落の多くが津波により、壊滅的に被災しました。これら被災地の多くが危険な丘陵地を背後に抱き、防災集団移転促進事業を活用し安全な高台に移転するためには、大規模な丘陵地の造成が必要ですが、丘陵地を開発する高台造成費用は高額なため、防災集団移転促進事業にかかる補助率の嵩上げと限度額の撤廃を要します。

土地区画整理事業については、補助率の嵩上げを要するとともに、住民が集団的に移転する新市街地を整備する際の大規模な高台造成にかかる費用について、補助対象とすることを要します。また、津波被害を受けた地区や地盤沈下があった地区における大規模な宅地の嵩上げ造成にかかる費用についても、同じように補助対象とすることを要します。

■その他まちづくりに関係する公共施設等整備事業 10,979億円

復興まちづくりに要する事業費 合計 21,079億円

津波防災・減災対策(宮城県要望)

津波から命と財産を守る防災・減災対策

○海岸堤防などにおける災害復旧事業の拡充を要望します

津波レベル1対応の嵩上げ

【現状】元の堤防より津波高さが低下し浸水

【整備イメージ】津波レベル1までの堤防の嵩上げ

津波レベル1対応の嵩上げ

津波レベル2「最大クラスの津波」

津波レベル1「比較的頻度の高い津波」
防犯面と機能面によって津波の侵入を防ぐ堤防保全等復旧等の復旧を行う上で想定する。数十年から百数十年に一度発生する津波。

津波レベル2「最大クラスの津波」
自然堤防を越えた時に被害が拡大する想定とする上で想定する津波。発生すれば重大な被害をもたらす。半島の東北地方

○多重防御による津波防護施設整備等の事業制度

施設が無い場合

浸水深が大きいため家屋大破・流失

津波高さ

津波レベル2

浸水部大

二線堤などの施設を整備した場合

道路盛土の二線堤等により住宅地の水位が低下し安全

津波高さ

津波レベル2

道路盛土による二線堤や避難路・避難場所、避難システム、津波防災に資する緑地等、多重防御により津波防災・減災対策を推進する事業制度の創設を要望します。

今回の震災で決壊や地盤沈下した施設について、津波レベル1対応の嵩上げと、津波高さがレベル1を超えた場合でも一定の機能が維持できる粘り強い構造での復旧を災害復旧事業で採択されるよう要望します。

命をつなぐ地域連携網の整備イメージ(スクラム釜石復興プラン骨子より)

防犯モデル校
緊急退出路
三陸縦貫道
JR山田線
東北横断道路
三陸鉄道
大船渡市

新設実拠点
命をつなぐ地域連携網
居住団地
東部地域
中心商業地
下平野
平田地域
命をつなぐ地域連携網
唐丹地域

命をつなぐ地域連携網の整備イメージ(スクラム釜石復興プラン骨子より)

被災前のイメージ

今日の津波の高さ

TL2

TL1

3.11TL

復興後のイメージ

今日の津波の高さ

TL2

TL1

3.11TL

※本図は暮らし方の一例として示しています

エリア1	エリア2	エリア3
既往最大(3.11)の津波が再来しても浸水しないエリア。	防波堤を超える波に襲われた場合、浸水する可能性があるエリア。市民の生命は確実に守るとともに、財産被害を最小限にとどめる。	防波堤を超える波に襲われた場合、確実に浸水するエリア。市民の生命だけは確実に守る。

鵜住居地域復興整備イメージ(スクラム釜石復興プラン骨子より)



釜石東部地域復興整備イメージ(スクラム釜石復興プラン骨子より)



平田地域復興整備イメージ(スクラム釜石復興プラン骨子より)



唐丹地域復興整備イメージ(スクラム釜石復興プラン骨子より)

